

科目名 (英文表記)	統合科目Ⅳ (戦略的CSR) (Integrated Subjects IV)										
科目区分	発展科目	単位数	2 単位								
担当教員名	山本 充 太田 稔 (非常勤講師)	ナンバリング	MBA_E_IS 6341								
研究室番号	411 (山本)	研究室電話番号	0134-27-5381 (山本)								
Eメール・アドレス	mitasu@res.otaru-uc.ac.jp、 <a href="mailto:m.oota@utekiani.net">m.oota@utekiani.net</a>										
<b>授業の内容及び方法：</b> 次頁以降に記載											
<p><b>授業の目的：</b>          本科目はCSRの要素の中でも環境領域を基軸とした内容として構成しており、特に自然資本経営を中心とした環境CSRに注目して授業を進める。グローバル化、長期化している現代の環境問題を解決するには循環型社会経済システムを早急に構築する必要がある。そのため、企業や組織は社会に対して透明性、自主性、継続性をもって環境マネジメントを実践し、その環境責任を果たさなければならない。自然資本がどのようにビジネスに影響を与え、どのような形でCSRを経営戦略に結びつけることができるのかを段階的に学び、実行できるようになることが目的である。</p> <p><b>【達成目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境に配慮した事業計画を考案できるようになる</li> <li>2. 環境責任を果たすことのできる組織体制を計画できるようになる</li> <li>3. ステークホルダーとのコミュニケーションを考えることができるようになる</li> <li>4. 本業を通じて社会的責任に注目した戦略を実行できるようになる</li> <li>5. 上記にある4項目を踏まえ、自社におけるCSR戦略を立案・実行できるようになる</li> </ol>											
<p><b>使用教材：授業時に適宜参考書を紹介する。</b>          テキスト： 拓殖大学政経学部編『サステナビリティと本質的CSR』三和書籍 2009年発行          藤田香著『SDGsとESD時代の生物多様性・自然資本経営』日経BP 2017年発行          参考図書： 谷本寛治著『CSR企業と社会を考える』NTT出版 2006年発行          岡本真一他『環境経営入門』日科技連 2007年発行          『アドバタイジング Vol.17 生物多様性とビジネス』電通 2008年発行          B&amp;JJapan『生物多様性へのビジネスアプローチ』経済法令研究会 2011年発行          その他： 授業で指定されるテキスト範囲や配布資料などは事前に精読しておくこと。</p>											
<p><b>成績評価の方法：</b></p> <table> <tr> <td>出席</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>事前・事後課題</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度 (発表、討論)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>最終課題 (モジュール8復習)</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>※5モジュール以上の出席が単位取得に必要。          評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。</p>				出席	0%	事前・事後課題	50%	授業への参加度 (発表、討論)	30%	最終課題 (モジュール8復習)	20%
出席	0%										
事前・事後課題	50%										
授業への参加度 (発表、討論)	30%										
最終課題 (モジュール8復習)	20%										
<p><b>履修上の注意事項：</b>          使用図書のみには依存せず、参考図書やインターネット上の情報を活かすこと。          課題については、授業やE-learningを通じて別途指示する。          詳細なレポートの提出時間については授業時に指定する。</p>											

## 授業の内容及び方法

<b>モジュール 1</b> オリエンテーション、環境と経済	
<b>事前準備</b>	「持続可能性の概念」についてリサーチし、A4用紙2枚以内にまとめて授業の2日前までに提出すること。
<b>第 1 時 限</b>	オリエンテーション
<p>CSRとは「Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）」の頭文字をとった概念であり、大企業に限らず中小企業も同様に考え組織の枠にとらわれることなく積極的に取り組む必要がある。このモジュールではCSRの概念や歴史、授業の目的や進め方、モジュール構成などについて説明する。</p>	
<b>第 2 時 限</b>	環境と経済
<p>環境（＝生態系）が生み出す環境サービスが無ければ経済社会は存続できない。この時限では、環境システムと経済システムの関係、持続可能性の概念、環境の経済的価値、環境評価の方法について概説しビジネスにおける環境配慮の必要性を理解する。</p>	
<b>復 習</b>	「持続可能な社会と企業はどのような関係にあるのか」を、A4用紙2枚以内にまとめて授業の1週間後までに提出すること。

<b>モジュール 2</b> 企業における環境対策の意味について	
<b>事前準備</b>	指定される企業のCSRレポートにある「環境」のページを精読し、その特徴をA4用紙2枚以内にまとめて授業の2日前までに提出すること。
<b>第 3 時 限</b>	自然資本経営と企業活動
<p>CSRレポートは、経済・社会・環境を中心にその企業独自の視点で様々な情報が盛り込まれている。このモジュールでは事前準備のレポートを元にしたグループワークを通じて、環境面から見た企業活動のあり方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々が調べた「環境」のページについての討議と発表</li> <li>・環境側面から見た企業活動</li> <li>・CSRレポートから見るその共通点</li> </ul>	
<b>第 4 時 限</b>	環境面から企業活動を考える
<p>CSRレポートには社内・社外に対して情報を公開するという役割があるが、ただ単に情報を公開して終わりではない。ステークホルダーが望む情報とはどのようなものを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トリプルボトムラインとCSRについて</li> <li>・環境報告書・サステナビリティ報告書とCSR報告書</li> <li>・「環境(Enviroment)」の視点と役割</li> <li>・フィランソロピーとメセナ、CSRとの相違点</li> </ul>	
<b>復 習</b>	「CSRレポートが環境について対応している理由はどのようなことが考えられるか」を、A4用紙2枚以内にまとめて授業の1週間後までに提出すること。

<b>モジュール 3</b>		自然資本経営における先進企業のケース分析
<b>事前準備</b>	E-learningにアップされるケースを読みA4用紙2枚程度にまとめて、授業の2日前までに提出すること。	
<b>第 5 時 限</b>	グローバル企業におけるCSR先進事例	
	<p>グローバル企業（特に欧米企業）は、サステイナビリティを経営戦略の中核と考えている場合が多い。自然環境以外にも人権への配慮や社会的課題の解決なども考慮し、長期的な展望を持った持続可能な経営を視野に入れている。このモジュールでは海外の先進事例を元にグループワークを通じて、持続可能な社会の必要性を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な調達と承認制度</li> <li>・自然資本経営と持続可能性について</li> </ul>	
<b>第 6 時 限</b>	自然資本経営戦略の検討	
	<p>持続可能な社会を可能にする自然資本経営にはどのような視点で取り組むことが必要かを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LCA（ライフサイクルアセスメント）</li> <li>・ゼロエミッション</li> <li>・持続可能な調達と承認制度</li> <li>・プロダクトチェーンマネジメント</li> </ul>	
<b>復 習</b>	「なぜグローバル企業はCSRに注力することが必要なのか」を、A4用紙2枚以内にまとめて授業の1週間後までに提出すること。	

<b>モジュール 4</b>		業界特性とCSR
<b>事前準備</b>	E-learningにアップされるケースを読みA4用紙2枚程度にまとめて、授業の2日前までに提出すること。	
<b>第 7 時 限</b>	業界の特性とCSRの特徴	
	<p>一口にCSRといっても業界により、企業規模により、活動する地域により取り組むべき特性は異なる。このモジュールでは、木材に関する業界動向、水産物に関する業界動向、緑化に関する業界動向、農作物に関する業界動向、パーム油に関する業界動向など特色の異なるCSRの共通点を、グループワークを通じて取り組み方の違いや共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々が調べたケースについての討議と発表</li> <li>・異なる業界における環境CSRの共通点とは</li> </ul>	
<b>第 8 時 限</b>	業界の違いと地域社会と共に生きる企業	
	<p>業界により取り組むべき視点が変わるCSRではあるが「環境」という項目は絶対に外せない重要な内容となっている。業界の違いに見るCSRの特徴と、特定の地域の中で活動する企業によるCSRの特徴を、特に環境CSR分野に注目して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本経済団体連合会、行政官庁、学術研究会などに位置付けられるCSR</li> <li>・地域社会の中にある企業のCSRの可能性とは？</li> </ul>	
<b>復 習</b>	「あなたの働く業界におけるCSRの特性はどのようなものがあるか」を、A4用紙2枚以内にまとめて授業の1週間後までに提出すること。	

モジュール 5		環境調和型社会と企業経営
事前準備	CSRレポートを発行している企業を自身で選定し、CSRレポートを精読しておくこと。また「環境」と「ボランティア」のページを理解しまとめて、授業の2日前までに提出すること。	
第 9 時限	自然資本経営と企業活動	
	<p>上場企業に限らず地域の中小企業も CSR レポートの発行に取り組んでいる場合がある。その理由は情報を公開することに意義がありその企業として必要と考えたからである。このモジュールでは CSR レポートにある「環境」と「ボランティア」のページに着目し、グループワークを通じてステークホルダーとのあり方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その企業の本業は何か？ CSR 活動はどのように本業に結びついているのか？</li> <li>・ボランティア活動に見る共通点は何か？ どのように社会に貢献しているか？</li> <li>・その企業にとって一番重要なステークホルダーは誰か？</li> </ul>	
第 10 時限	CSRとパートナーシップ	
	<p>環境と調和した企業とはステークホルダーとの信頼関係を高め、時には対話を通じて事業に貢献してもらうこともある。企業と行政が行う協働や、NGOやNPOとのパートナーシップ、その他多様なステークホルダーを巻き込む仕組みを持つ円卓会議などが、企業にとってどのような意味を持つのかを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・ビジネスとCSR</li> <li>・バックキャスト思考</li> <li>・マルチステークホルダープロセス</li> </ul>	
復習	「地域活動に積極的に取り組む企業とはどのような特性があるか」を、A4用紙2枚以内でまとめて授業の1週間後までに提出すること。	

モジュール 6		企業戦略としてのCSR推進プラン作成
事前準備	E-learningにアップされるケースを読みA4用紙2枚程度にまとめて、授業の2日前までに提出すること。	
第 11 時限	自然資本経営とステークホルダー	
	<p>企業戦略として CSR を考えた時に、行政はもとより NGO や市民団体など多様なステークホルダーとのコミュニケーションが必要となってくる。このモジュールでは、企業はどのようにステークホルダーとコミュニケーションを取ることができるのかを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、市民、NPO 等と企業のパートナーシップについて考える</li> <li>・マルチステークホルダープロセス、円卓会議</li> <li>・グローバル化におけるリスクとビジネスチャンス</li> </ul>	
第 12 時限	CSR推進プラン作成	
	<p>指定されたグループに分かれ、持続可能な調達と自然資本経営を意識したCSR推進プランを作成する。設定企業は各班に任せるがCSRに取り組んでいない企業が望ましい。プラン作成にあたり、①全てのステークホルダーに向けて説明することをイメージした内容とすること、②スライド5~15枚以内にまとめ発表時間は1班15分程度で説明できる内容とすること、③「ビジョン」「環境」「ボランティア」「地域」の視点は必ず入れること。</p>	
復習	「ステークホルダーをうまく巻き込んでいるCSRの事例」を探し、A4用紙2枚以内でまとめて授業の1週間後までに提出すること。	

モジュール 7		CSR推進プラン作成を通じた戦略策定
事前準備	第11時限で練りこんだCSR推進プランを作成し、授業の2日前までに提出すること。	
第 1 3 時限	CSR推進のための具体的な計画作成	
<p>事前準備で作成した活動プランを元に各グループ 15 分程度で発表する。発表内容は、①全社戦略として考えられているか、②社内にどのように浸透させていくのか、③地域社会にどのように広めていくのか、④社会に対してどのように発信していくか、という4点を評価ポイントとする。</p>		
第 1 4 時限	守りのCSRから攻めのCSRへ	
<p>法令遵守から始まる企業として基本的な CSR から、広く社会に発信する攻めの CSR といわれる事例を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダー・コミュニケーション</li> <li>・社内の視点、社外の視点</li> <li>・次世代に向けた社会的投資の視点・地域へのコミットメント</li> <li>・先進事例に見る CSR の方向性について</li> </ul>		
復 習	「発表より各チームの優れた戦略的優位性と感じた点」を、A4用紙2枚以内でまとめて提出すること。	

モジュール 8		生物多様性・自然資本経営と戦略的CSR
事前準備	E-learningにアップされるケースを読みA4用紙4枚程度にまとめて、授業の2日前までに提出すること。	
第 1 5 時限	ESD (Education for Sustainable Development) と CSR	
<p>企業活動を持続可能な形で継続していくためには、自然資本が経営に与える影響を知り、生物多様性の重要性を再認識する必要がある。その一方で企業がCSRとして取り組む以外にも、生物多様性の保全や自然資本経営自体を本業とするビジネスも生まれている。企業の社会性とソーシャル・エンタープライズの事業性について説明し、これからのCSRのあり方をディスカッションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性をめぐる世界の動き、日本の動きについて</li> <li>・ソーシャル・ビジネスとCSR</li> <li>・生物多様性とビジネスの可能性について</li> <li>・国連 SDG's (Sustainable Development Goals) と企業活動</li> </ul> <p><b>※以下の「復習」にあるレポートを最終試験とし成績評価をする。</b></p>		
復 習	これまでに学んだことを総合し、今後の経営戦略策定において自然資本経営を重視する視点から、①CSR戦略が必要な理由と課題、②戦略的にCSRを推進するための具体的な方法を、A4用紙8枚以内にまとめて授業の1週間後までに提出すること。	